

# バクー、欧州のスポーツ 首都となる

ムサ・マルジャンリ、  
編集長

現代のスポーツは社会心理的現象として、経済面でも重要な役割を占めるに至っています。周知のように現代のスポーツは、多額の資金の移動を伴う、多岐にわたる産業を成しています。のみならず、高度な技を競い合うスポーツは、すでに久しい以前から、政治的にも重要な役割を果たしています。国際的なスポーツ行事のカレンダーは、実にぎっしり。とりわけ真っ赤に書き込まれているのは、言うまでもなく、オリンピック大会でしょう。1951年から開かれているアジア大会、パンアメリカン大会など、オリンピック級の地域的行事も、高い人気を誇っています。世界の他地域でも大会が開かれてきましたが、欧州だけが例外でした。

第1回欧州競技大会の開催に関する決議が2012年12月8日、ローマで開かれた欧州オリンピック委員会第41回総会で採択されました。無記名投票の結果、48か国中38か国が、第1回欧州大会をアゼルバイジャンの首都バクーで開催することに賛成しました。

2015年6月12日から28日まで、欧州は初の地域競技大会をバクーで執り行いました。この17日間に及ぶ夏の日々を、アゼルバイジャンは、旧世界スポーツ運動の歴史に書き加えました。まだ若く、スポーツ大国であるとの認識が浸透していない国家、ほかでもないアゼルバイジャンが、地域的規模の新しいスポーツ行事の基礎を築いたのです。またアゼルバイジャンは、高度な代表的性格をもつ国際競技大会を開催する能力にかけて、誰にも遜色がないことを万人に立証しました。

第1回欧州大会は、アゼルバイジャン全国民の誇りとなりました。客人たちが欧州各国からバクーを訪れ、アゼルバイジャンの文化・音

楽・料理に親しみ、また親しむと同時に、そのすばらしい開催ぶりと、もてなしの心とに感嘆し、場合によってはそれまで、ごく曖昧な認識しか持っていなかった国だったかも知れないのに、その国から受けた、忘れがたき印象のとりことなって、それぞれの家路に就いたのです。客人たちは、アゼルバイジャンを知りました。そのことは、アゼルバイジャンにとっても、大きな勝利でした。

17日間にわたり、欧州50か国の6千人を超えるスポーツ選手が、友好と相互尊重の精神のもと、20種目に及ぶ競技を繰り広げました。どのようなスポーツ競技でも、それが前提としているのは、ほかでもない、このような精神です。なぜなら真のスポーツとは、技を競い合うものであり、いかなる悪意とも、ましてや敵意とは、無縁のものだからです。

この技と意志との競演において、アゼルバイジャンは金メダル21個、銀メダル15個、銅メダル20個を獲得し、大会参加50か国中で第2位を占めました。目をみはる成功であり、スポーツの発展を目指す、近年の国内努力のめざましい成果でもありました。このように、アゼルバイジャンは独立24年目にして、歴史的意義のある功績を成し遂げました。この水無月の17日間にわたり、アゼルバイジャンは欧州市内外のスポーツ愛好界の注目の的となりました。アゼルバイジャンが石油だけでなく、高度な文化と、もてなしの伝統をも誇る国であることを、誰もが胸に刻みました。

『IRS 遺産』誌の本号では、この記念すべき行事である2015年バクー欧州大会について、幅広い読み物を提供します。ぜひお楽しみください。